



N.Inaba

ジャパン・オータムインターナショナル

THE QUEEN ELIZABETH II CUP

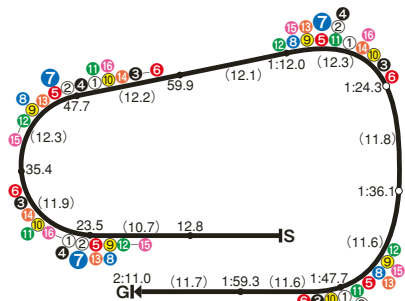
第50回 エリザベス女王杯 (GI)

1着 賞130,000,000円 2着 52,000,000円 3着 33,000,000円 4着 20,000,000円 5着 13,000,000円
付加賞 3,486,000円 996,000円 498,000円



レース映像は
こちらでご覧
いただけます。

牝、3歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 3歳54°、4歳以上56°



通過タイム: 600m 800m 1000m 上り: 800m 600m
35.4 - 47.7 - 59.9 46.7 - 34.9

アラカルト

- 戸崎圭太騎手はエリザベス女王杯初勝利。JRA重賞は25年8勝目、通算85勝目
- 木村哲也調教師はエリザベス女王杯初勝利。JRA重賞は25年6勝目、通算37勝目
- スワーヴリチャード産駒はJRA重賞通算9勝目
- 4歳馬の勝利は22年ジェラルディーナに続く通算14回目(古馬混合となった96年以降)
- 勝ちタイム2:11.0は24年スタンingローズが記録した2:11.1を更新するレースレコード

2025.11.16 京都 晴・良 芝2200m (国際) (指定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑦	レガレイラ	牝4	56	戸崎圭太	2:11.0	9-10-10-8	34.2	480(+8)	2.3①	木村哲也(美浦)	117
2	①	バラディレーヌ	牝3	54	岩田望来	1¼	7-6-6-5	34.7	508(+6)	10.0④	千田輝彦(栗東)	113
3	⑫	ライラック	牝6	56	藤岡佑介	1	15-15-16-16	34.2	456(-2)	32.7⑨	相沢 郁(美浦)	111
4	⑥	リンクスティップ	牝3	54	C.デム・ロ	アタマ	6-4-4-3	35.0	482(+2)	5.8②	西村真幸(栗東)	111
5	⑬	コナッツブラウン	牝5	56	北村友一	½	11-12-12-12	34.6	462(+2)	6.2③	上村洋行(栗東)	110
6	⑩	セキトバイースト	牝4	56	浜中 俊	½	4-4-3-3	35.3	468(-10)	36.5⑩	四位洋文(栗東)	109
7	⑤	サフィラ	牝4	56	西村淳也	ハナ	11-10-10-11	34.8	470(+6)	118.7⑮	池添 学(栗東)	109
8	⑧	ヴェルミセル	牝5	56	鮫島克駿	½	13-13-14-12	34.7	468(±0)	48.5⑮	吉村圭司(栗東)	108
9	①	フェアエールング	牝5	56	丹内祐次	1½	4-6-7-8	35.2	464(±0)	50.4⑭	和田正一郎(美浦)	106
10	②	ステレンボッシュ	牝4	56	C.ルメル	クビ	9-9-7-8	35.4	472(±0)	13.2⑥	国枝 栄(美浦)	106
11	⑨	ボンドガール	牝4	56	津村明秀	クビ	13-13-12-14	35.1	460(+2)	44.1⑫	手塚貴久(美浦)	105
12	⑥	エリカエクスプレス	牝3	54	武 豊	ハナ	1-1-1-1	36.0	462(±0)	12.2⑤	杉山晴紀(栗東)	105
13	③	シンリョウカ	牝5	56	木幡初也	¼	2-2-2-2	36.0	464(-2)	36.6⑪	竹内正洋(栗東)	103
14	④	ケリフレッドアスク	牝3	54	岩田康誠	¾	3-3-4-5	35.9	456(-2)	145.6⑯	藤原英昭(栗東)	102
15	④	カナテープ	牝6	56	D.レーン	1¼	7-8-7-5	36.1	468(±0)	26.5⑦	堀 宣行(美浦)	100
16	⑤	オーロラエックス	牝4	56	松山弘平	2½	16-16-14-14	35.9	488(±0)	26.7⑧	杉山晴紀(栗東)	96

単勝⑦230円(1¼%) 複勝⑦130円(1¼%) ①280円(4¼%) ④460円(7¼%) 枠連①-④690円(2¼%)
馬連①-⑦1,280円(3¼%) ワイド①-⑦610円(3¼%) ⑦-⑨950円(7¼%) ①-③3,430円(42¼%)
馬単⑦-①1,720円(3¼%) 3連複①-⑦⑧8,920円(26¼%) 3連単⑦-①②24,680円(52¼%)
5重勝⑥⑤⑩⑥⑦366,090円(1,364票) 対象競走: 東京10R/京都10R/福島11R/東京11R/京都11R

レガレイラ Regaleira

牝 鹿毛 2021.4.12生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・南サンデーレーシング 美浦・木村哲也厩舎
馬名意味・ポルトガル中西部の都市シントラにある宮殿

ウインドインハーヘアIRE系 F2-I

スワーヴリチャード 栗毛 2014	ハーツクライ 鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA アイリッシュダンス
	ピラミマUSA 黒鹿毛 2005	Unbridled's Song Career Collection
ロカ 鹿毛 2012	ハービンジャーGB 鹿毛 2006	Dansili Penang Pearl
	ランズエッジ 鹿毛 2006	ダンスインザダーク ウインドインハーヘアIRE

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M4 Lyphard S5×M5

INTERVIEW

佐藤洋輔 調教主任（ノーザンファーム早来）

牝馬初の有馬記念連覇を期待します

ベストな状態ではなかったにもかかわらず、最高の結果が残せたオールカマーを見て、改めて能力の高い馬だと思いました。中間を担当していたノーザンファーム天栄の厩舎長が、「自信を持って木村厩舎へ送りだせました」と話していたのですが、テレビの画面越しに見ても状態の良さが伝わってきました。この後は牝馬では史上初となる有馬記念連覇を期待します。

H.Yamanaka



25年、骨折明けの宝塚記念では大敗（11着）を喫した本馬だが、夏場の休養を挟んで態勢を立て直された秋はさすがのパフォーマンスを披露。始動戦のオールカマーに続いてこの日も身上的末脚を冴え渡らせ、2歳時のホープフルSから3年連続のGI制覇、1番人氣の支持に応えられなかった1年前（5着）の雪辱も果たした。いっそう貴禄を増した印象の女王は暮れの大一番に進み、達成すれば史上5頭目、22年ぶりとなる有馬記念連覇に挑む。

父スワーヴリチャード

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首19戦6勝（ジャパンC^{G1}、大阪杯^{G1}、金鯱賞^{GⅡ}、アルゼンチン共和国杯^{GⅡ}、共同通信杯^{GⅢ}、日本ダービー^{G1} 2着、東京スポーツ杯2歳S^{GⅢ} 2着、ジャパンC^{G1} 3着、ドバイシーマクラシック・首^{G1} 3着、宝塚記念^{G1} 3着、安田記念^{G1} 3着）、20年から供用〔代表産駒〕レガレイラ（本馬）、アーバンシック（後出）、コラソソビート（京王杯2歳S^{GⅡ}、フィリーズレビュー^{GⅡ} 2着、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1} 3着）、スウィープフィート（チューリップ賞^{GⅡ}）、アドマイヤベール（フローラS^{GⅡ}）

母ロカ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央6戦1勝（忘れな草賞[○] 2着、クイーンC^Ⅲ 3着）

ロックオブエ이지ズ（18 牡父スクリーンヒーロー）中央5戦0勝、地方4戦1勝
ドゥラドーレス（19 牡父ドゥラメンテ）中央12戦5勝（小倉日経賞[○]、江の島S、藻岩山特別、セントポリア賞、オールカマー^{GⅡ} 2着、エプソムC^Ⅲ 2着、七夕賞^{GⅢ} 2着、毎日杯^{GⅢ} 3着、菊花賞^{G1} 4着）^⑧
（20 牡父ジャスタウェイ）

レガレイラ 本馬（21 牝父スワーヴリチャード）中央11戦5勝（有馬記念^{G1}、エリザベス女王杯^{G1}、ホープフルS^{G1}、オールカマー^{GⅡ}、アイビーS・L 3着）獲得総賞金835,637,000円

セラドピラル（22 牝父シュヴァルグラン）中央7戦0勝

アルガルヴェ（23 牝父インディチャンプ）^⑧

（24 牡父リオンディーズ）

（25 不受胎）

祖母ランズエッジ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央0勝

ロカ（12 前出）

エッジースタイル（13 牝父ハービンジャーGB）中央3勝（都井岬特別）、アーバンシック（菊花賞^{G1}、セントライト記念^{GⅡ}）の母

ブルークランズ（14 牝父ルーラーシップ）中央3勝（北大路特別）、ステレンボッシュ ^⑧（桜花賞^{G1}、オークス^{G1} 2着、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1} 2着、秋華賞^{G1} 3着、香港ヴァーズ^{G1} 3着）の母

ヴァルコス（17 牝父ノヴェリストIRE）中央2勝（ゆきやなぎ賞、青葉賞^{GⅡ} 2着）

曾祖母ウインドインハーヘアIRE

愛、英、独3勝（アラポカル・独^{G1}）、99年輸入、12年用途変更、ディーフィニバクト（日本ダービー^{G1}、ジャパンC^{G1}、日本リーディングサイヤー）の母

冴え渡る末脚で3年連続のGI制覇

第50回の節目を迎えたエリザベス女王杯にはレース史上初めて有馬記念の優勝馬が参戦。秋の始動戦・オールカマーを快勝した後、進路の予先をここに向けてきたレガレイラが単勝2・3倍と断然の支持を集めた。桜花賞3着、オークス5着の3歳馬リンクステイップ、クイーンS2着、札幌記念でも2着に追い込んだココナツツブラウンと、重賞未勝利の2頭が主役が続く存在と目されたものの、結果はレガレイラが完勝。一枚も二枚も上の底力を見せてつけてGI3勝目を挙げた。

秋華賞で2着に逃げ粘ったエリカエクスプレスが、先手も辞さない構えで飛び出した内のシンリヨク力を従えて

火が付いたレガレイラはこれを凌駕する末脚を発揮。先に抜け出した3歳馬を難なくかわし、一気に先頭へ突き抜けた。

グランプリホースとして迎えた2025年、骨折明けの宝塚記念では大敗（11着）を喫した本馬だが、夏場の休養を挟んで態勢を立て直された秋はさすがのパフォーマンスを披露。始動戦のオールカマーに続いてこの日も身上的末脚を冴え渡らせ、2歳時のホープフルSから3年連続のGI制覇、1番人氣の支持に応えられなかった1年前（5着）の雪辱も果たした。いっそう貴禄を増した印象の女王は暮れの大一番に進み、達成すれば史上5頭目、22年ぶりとなる有馬記念連覇に挑む。